

令和5年度「熊本大学病院医療助成金」使用実績報告書

(一般財団法人恵和会寄附金)

使用者 (代表者)	氏 名		所 属		職 名	
		江藤弘二郎		消化器外科		特任助教
グループ全員 *記入欄が不足する ため、別紙に記入	小澄 敬祐		消化器外科		特任助教	
	大内 繭子		消化器外科		助教	
	伊東山瑠美		消化器外科		助教	
活動テーマ	消化器外科患者の多職種で連携した「私のカルテ」の導入					
助成金額	400,000 円		助成金使用総額	137,337 円		
【使用内訳】 消耗品 84,337円 (内訳) コピー用紙、トナー、バインダー等 旅費 53,000円 (内訳) 日本胃癌学会参加費用						
【成 果】 (※具体的な効果および自己評価も含め1,000字程度) がん対策基本法に定められた医療連携体制の構築の義務化として、我が国に多いがんについてクリニカルパスを整備することが必須事項とされる。「私のカルテ」は、その熊本県版がん診療連携パスのことである。 導入して時間がある程度経過したが、問題点として ① 各診療科主導のため、医師・看護師が多忙であると症例の見逃しがある ② かかりつけ医の認識不足 ③ 術後病理結果によって、補助療法が必要となる症例があり、サーベイランスが異なる点 ④ 治験や臨床試験に移行する症例もあり、スクリーニングが必要な点 等が挙げられた。 上記を改善するために、 ① ドクターズクランクに協力してもらい、タスクシェアを行う ② 学会にて、他県・他大学にての運用について調査を行い、情報交換を行う 上記のことに助成金を使わせて頂いた。 病棟師長・ドクターズクランクに協力してもらい、「私のカルテ」に対する資料・同意書などを作成し、あらかじめ対象となりそうな患者へ入院中の時点から啓発活動を行った。 また、第96回日本胃癌学会総会に参加し、他大学の医師と意見交換を行った。一番有効なこととして、近隣医師会において講演会などを通じて、パス運用について啓発活動を行うことが非常に重要であることを再認識した。愛知医科大学では、連携パス担当看護師を指定しており、地域連携室が積極的に紹介医を調査していることであった。当院でも癌支援センター石坂看護師を中心に連携しており、石坂看護師にも愛知医科大学での連携について情報を共有した。 上記の活動の結果、消化器外科における「私のカルテ」導入者が令和4年度は12名だったのに対して、令和5年度は16人に増加した。 本来はもっと学会に参加して情報交換を行いたかったが、アフターコロナということもあり、地域連携よりもコロナ前後の医療についてのセッションが多く、あまり議論が出来なかったことが悔やまれる。今後、さらなる「私のカルテ」の普及に努めていきたい。 最後になりましたが、この度は助成金を頂き誠にありがとうございました。この助成金により、「私のカルテ」の導入・運用がさらに円滑に行うことができるようになったと考えております。また、助成金を活用することで、患者への啓蒙活動・スタッフの教育・研修にも力を入れることができました。改めて、厚く御礼申し上げます。						

(別紙)

グループ全員の氏名・所属・職名（追加分）

氏名	所属	職名
中川 茂樹	消化器外科	特任助教
問端 輔	消化器外科	特任助教
谷川 徹也	東4階	師長
渡邊 玲子	西4階	師長
吉田 奈葉	消化器外科	ドクターズクラーク
堀川 京子	消化器外科	ドクターズクラーク